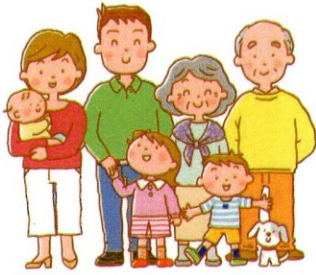


### ご近助ほっこり活動



旭区社会福祉協議会は、地域での見守り活動を推進するため、令和元年11月に検討チームを立ち上げ、令和3年5月に「ご近助ほっこり活動」として取りまとめました。

時代の変化とともに人々の生活様式も少しずつ変わります。スマートフォンなどのIT技術により仕事や暮らしの効率化が図られた結果、私たちはより多くの時間をプライベートに充てられるようになるなど、個人の生活が重視される社会になってきています。

一方で、近隣とのコミュニケーションが希薄になってきているという指摘もあります。お隣さんと言葉を交わす機会が少なく



## 「ご近助ほっこり活動」を策定

### 旭区社会福祉協議会

# 二俣川ニュータウン社協だより

第124号  
2022(令和4)年  
3月19日発行  
◆発行人  
二俣川ニュータウン地区  
社会福祉協議会  
会長 宮寺良孝  
◆編集人  
広報委員長 小菅昭

## 「見守り」って何だろう？

見る

- 郵便物が溜まっている
- ゴミ分別がうまく出来ない
- 雨戸が開閉めばなし
- 洗濯物が何日も干してある
- 極端に痩せた(太った)
- 庭木が異様に生い茂っている
- 回覧板を回すときに元気がない

聞く

- 生活の音(全くなくなったりうるさくなった)
- 子供の激しい泣き声がする

におい

- 体臭がきつい
- 夕食を作る臭いがない



におい

なり、隣に住んでいるのがどんな人なのか分からないということも珍しくなくなりま

私たちが住んでいる地域には、いろいろな方々が生活しており、中にはお困りことや心配を抱えながら暮らしている方もいらつやいます。しかし、長野県須坂市での調査によると、「あなたは困ったときに助けてと言えますか?」の質問に対して95%の人が「言えない」と回答しています。このことから、困っている人には、周りか

らに見守り活動が重要であることが分か

まずはお一人お一人の外出機会を増やし、顔見知りを増やすことを第一目標と定め、実現を目指します。福祉保健計画の推進組織である「福祉懇談会」では、これまでの町内会、民生委員や友愛活動推進委員による見守り活動に加え、「ご近助ほっこり活動」の狙いを生かしたニュータウン地区の「見守り」の仕組みづくりに向け、検討を進めています。

らに見守り活動が重要であることが分か

昨年、旭公会堂で開催された「ご近助ほっこり活動」の説明会を、私たちニュータウン地区社協も聴講しました。見守り活動を通して、お困りごとや心配ごとを相談していただき、孤立を未然に防ぐことがとても大切であると感じました。

ニュータウン地区では昨年策定した第四期福祉保健計画で、改めて「住んで良かったと思える街づくり」を掲げました。すべての住民が安心して暮らせる街をつくるためには、支援を必要としている人に手を差し伸べることも、となり近所への気配りを忘れない暮らしのスタイルが必要です。



◆生活支援「チョットしえたい」  
代表 春田(360-49886)  
申込み 坂東(260-28228)  
(090-1694-05884)

◆お茶べりサロン「さんさん」  
代表 宮寺(361-7451)  
第4水曜日 11時~14時  
3月23日・4月27日・5月25日

◆高齢者昼食会「朋き会」  
代表 飯塚(363-0001)  
第2水曜日 12時~14時  
日程(注)

◆健康と趣味のサロン「サロンあさひ」  
代表 小澤(954-0922)  
毎週金曜日10時30分~15時  
日程(注)

◆男の料理教室「男の食彩N」  
代表 半澤(365-6409)  
第2火曜日 9時~  
日程(注)

◆コース「J」  
代表 舟山(954-1362)  
毎週火曜日 10時~  
日程(注)

◆子育てサロン「わいわいクラブ」  
代表 関川(951-1834)  
第3木曜日 10時~11時45分  
3月17日・4月21日・5月19日(注)

◆介護予防体操「スマイル体操」  
代表 田邊(363-3078)  
第4金曜日 10時~11時30分  
3月25日・4月22日・5月27日(注)

◆引きこもり予防  
フルティックウォーク同好会  
代表 山田(364-1333)  
申込み 坂東(365-28228)

◆第1日曜日 9時30分~12時  
事前集合場所・目的地・参加費を連絡  
4月3日・5月1日・6月5日

(注) 状況を見て時期・日程変更等を検討

### ボランティア団体の活動日程

### 「クラブ紹介」

## 中沢サッカースクール(中沢SS)

私たちは、1982年から活動している小学生を対象にしたサッカークラブです。部員は中沢小学校だけでなく、近隣小学校の児童もおり、現在50名ほどの子どもたちが在籍しています。アットホームな雰囲気、親切なコーチのもと、楽しくサッカーを学んでいます。「キャプテン翼」や「イナズマイレブン」などサッカー漫画ブームが起こり、その後Jリーグが設立。今や海外のチームで活躍する選手も多く、日本代表がW杯へ大会連続出場するなど、サッカーは日本でメジャーなスポーツになりました。

現在はコロナ禍で、チーム行事や練習体験などは一時休止していますが、子どもたちは大好きなサッカーに夢中で元気にボールを追いかけています。今年は2022カタールW杯です。TV観戦だけでなく、一緒にサッカーやしませんか！



### 練習日・練習会場

土曜日:中沢小学校  
日曜日(第2,4):旭中学校  
日曜日(第1,3,5):中沢小学校(1年から4年)  
日曜日(第1,3,5):旭中学校(5年・6年)



## 並木愛護会の活動にご参加いただき ありがとうございました



昨年11月2日から始まったこぶし並木通りを皮切りに、12月12日まで計18回の落ち葉清掃活動が実施され、延べ1425名の方々に参加いただきました。

サポーターの119名に加え、老人クラブの皆様、中沢小児童、ジュニアボランティアさん、地域防災科の授業で参加の旭中学生さんたち、ご参加ありがとうございました。これからも皆様のご協力を得て、並木通りの景観保全に取り組んで行きたいと思っております。



旭中学校2年  
給分葵(きゆう、かんあおい)

地域の方々にはほづきを動かすが早く、手慣れた様子でそうじをしてもらっていました。まねをしてみたら、やり方がまちがっているのかなかなかうまく扱えず、ほづきが首に「コスコス」当たって痛かったです。地域の方々には、自分とこだけでなく、私たちがあつめた落ち葉までちりとりでとって、捨ててくれたりと、協力してくださいました。最初はかんたんだと思いましたが、そうじも案外むずかしいと思いましたが、いつか、車道などの危ないところもそうじをしていただけているので、機会があれば私ももっと参加したいです。



## 旭中学校 地域防災科の授業で、落ち葉清掃活動に参加しました

旭中学校2年  
樹本 陽奈子(ますもとひな)

普段歩いている道を清掃してみても、清掃する前は「今年もイチョウが落ちているな」と思う程度でしたが、清掃後は「きれいだな、よかったな」と思うようになりました。体力のある私たち中学生でも、やってみるとつかれて大変だと感じましたが、周りの方々を見てみると、年齢が上の方が多く、足しや体力面など私たちよりはきつと弱まっているにもかかわらず、余裕をもった笑顔であいさつしてくれたり、ずっと真剣に清掃してくれたりしている姿を見て、すごいなと思いました。今回活動に参加して地域の人と関わってみて、私たちが見えない時間にも活動しているなど、色々なことも知ることができました。もし、今後、私たちに参加できる機会があれば、積極的に参加し、今よりもっと地域の人と関わりたいなと思います。



## 「防災を考える会」が 起震車による地震体験会を開催

第二町内会 防災を考える会代表 松田幹生

第二町内会では昨年11月28日、住民を対象に起震車による地震体験会を開催し、50名以上の方々に揺れの怖さを体験していただきました。

前回の地震体験会は6年前でしたので、当時の記憶が薄れてしまったり、新しく越してきた方々もいらっしゃるので、第2回目を開催いたしました。

第二町内会では10年ほど前から多方面に渡って防災活動に力を入れてお



り、今回の地震体験会もその一つです。将来70%の確率で発生すると言われる首都直下型などは、これまでに経験し得なかった震度6以上と予想され、起震車での体験は未経験の揺れの怖さを実感する貴重な機会となります。

起震車は町内会単位で消防署に申し込み手配します。お近くの公園などで開催できますので、是非、体験をお勧めいたします。

## 2021年度 旭区社会福祉協議会 社会福祉功労表彰(地域福祉功労)を 受賞しました!



名原 やす子さん  
活動内容:サロン「あさひ」ボランティア  
活動歴:16年3か月



鶴飼 教子さん  
活動内容:サロン「あさひ」ボランティア  
活動歴:16年3か月

永年にわたる地域福祉への貢献に、心より感謝を申し上げます。

【編集後記】今回の社協だよりでは、昨年5月に旭区社協が策定した「見守り」活動について取り上げました。「見守り」に関する活動は、すでに各団体等で実践されてきており、皆さんにとっても馴染みのある活動ではないかと思っております。しかし、

昨年、旭区社協から「見守り」活動について新たな提言があったことは、これまでの「見守り」活動が、時代の変化とともに見直しの必要に迫られている表れではないかと感じております。昔からの活動に携わってきた大先輩にお尋ねした時の

お話が印象深かったです。「見守り」活動の作業量が見えるように数値化したら、数字だけが一人歩きを始め、活動の目的が迷走してしまったそうです。地域にしっかりと根付き、持続可能な「見守り」活動とは何かを考えさせられました。

〈編集委員〉  
小菅昭 福本瑠美子  
小川美枝子 石村保子  
小野寺慎一郎 高原陽子